報　告

中山間地域の住民自治活動計画に基づく本学学生の行事参加報告
－A 地域夢プランの作成を踏まえた実践への展開－

横山順一*1

キーワード：中山間地域、住民自治活動、地域行事、地域活性化

1　はじめに

2013年8月24日に開催された集落盆踊り（山口県萩市A地域）に、本学4名と筆者合わせて5名が参加をさせていただいた。単に盆踊りに参加することが目的ではなく、中山間地域の住民自治活動計画であるA地域夢プランの具体的実践活動の一環として、地域の活性化の一助が主目的である。

中山間地域は平野の外縁部から山間部を指す。中山間地域の特徴については1999年制定の「食料・農業・農村基本法」第35条に根拠がある。第35条は中山間地域等の振興について定めており、「山間地およびその周辺地域その他の地勢等の地理条件が悪く、農業の生産条件が不利な地域」を中山間地域等と規定している。我が国においてはこのような中山間地域は国土面積の65％を占めている。耕地面積の43％、総農家数の43％、農業算出額の39％、農業集落数の53％を占める等、我が国の農業の重要な地位を占めている。このような状況において、中山間地域に暮らす人々の生活基盤の安定を確保したり、中山間地域の将来像を模索したりすることの困難は大きい。このような地域が我が国においても深刻な問題を抱えていることが指摘されている。

具体的には（1）人口の減少と過疎化及び超高齢化の進行、（2）自然環境等生態系保全対策の遅れ、（3）地域産業の空洞化と沈滞化、（4）高齢化のみ世帯の増加、（5）強い地域紐帯と高齢者の定住志向、（6）医療機関や社会福祉施設の不足等の諸問題が挙げられている[1)]。

萩市健康福祉計画によると、年少人口及び生産年齢人口は減少し続けており、高齢者人口は増加傾向にある。高齢者人口は2010年で19000人弱、高齢化率は35.1％となっており、3人に1人が65歳以上である。その一方で、出生数は2000年以降年々減少しており、萩市全体の少子高齢化の進行は今後も継続されることが推察されている。さらに県生命表によると、2018年には市全体の高齢化率は41％に達することが推計されている。A地域は20年前にすでに高齢化率が34％を越えており、現在では45％にまで上昇しているといわれている[2)]。

そのような状況において、地域の課題を見つめ直し、住民相互の努力によって解決もしくは緩和につなげるべく、2011年度からA地域コミュニティ協議会の住民自治計画立案にむけた議論が始まり、山口福祉文化大学からも筆者が参加、共同しプランニングをすることとなった。計画の実践活動が2013年度に実施できる運びとなったため、その経緯と実践について報告する。

2　実践までの経緯とA地域夢プランとの関わり

A地域夢プランは、行政による福祉計画ではなく、住民で構成される住民自治団体であるA地域コミュニティ協議会による住民自治計画である。その夢プランを策定し、そのプランに基づいて実践活動をするまでには、以下の段階を経ている（表1）。

A地域コミュニティ協議会の構成員の多くは専業または兼業農家を営んでいるため、農繁期には住民活動の議論は停滞しやすい。そのため、議論の多くを農閑期に行っていた。さらに、冬期間は降雪のためプラン

*1　山口福祉文化大学　ライフデザイン学部

に基づく活動が制限されることから、住民自治活動の本格的実践時期は限定されやすいという状態であった。

表1　夢プランに関わる活動の変遷

年　月	内　容
2011年　5月	地域課題を把握する地域調査の準備
2012年　2月	地域調査の実施
2012年　6月	地域調査の集計分析、報告書提出
2012年　10月	夢プランの素案作成とコミュニティ協議会での議論
2012年　12月	夢プランの策定と住民への説明会開催
2013年　6月	夢プランに基づく実践活動の打ち合わせ
2013年　8月	夢プランに基づく実践活動

A地域は地理的にも広大で、集落が点在している状態でもあることから、生活課題や住民活動の意識にも温度差が大きい。したがって、今回の夢プランはA地域全体を対象とするのではなく、一部地区を対象としたモデルケースとし、活動の実績を積み重ねる事で、地域全体に今後広げていくこととなった。

2012年12月に住民の合意を得て策定した夢プランを文末に示す。

今回の実践は、農繁期の実践でもあるため大規模な実践ではなく、プランの大項目「行事、イベントの活性化」に関わる部分での実践とした。2013年6月よりA地域コミュニティ協議会と協議を重ね、地域行事の盆踊りに大学として運営準備に関わることとなった。

3　実践準備

A地域コミュニティ協議会の依頼により、筆者が地域調査の集計分析に始まり、夢プランの素案作成、A地域コミュニティ協議会への提案、住民の意見等を踏まえて修正し策定までを行って来たことから、筆者の実践活動意識は高く維持されていた。そのため、大学前期講義期間中からA地域における住民自治活動支援の学生ボランティアを募り、同時にA地域コミュニティ協議会に対して夢プランに関わる住民自治活動の有無について問い合わせをしてきた。本学の学生を伴って活動を行うためには、講義期間では時間の制約上困難であるため、長期休業中に参加することを条件として、A地域コミュニティ協議会と地域行事の参加と参加方法について検討を進めた。上でも触れたように、本学夏期休業中は地域住民にとっては農繁期である。学生の参加の手間が地域住民の重荷になるのであれば、本学独自で夢プランの中から実践可能なものをピックアップして実践する旨も伝えていた。その結果、地域行事である2集落合同の盆踊り大会に参加するだけでなく、その地域行事を盛り上げるための活動も依頼されたのである。

本学から参加希望のあった学生参加者は4年生の4名で、そのうち3名は萩本校、1名は広島サテライト教室所属の学生で、男子学生3名、女子学生1名である。

地域行事を盛り上げるための活動の打ち合わせについては、講義時間の都合上学生は不参加で、A地域コミュニティ協議会メンバー、A総合事務所担当職員および筆者で行った。打ち合わせの内容は（1）行事として盛り上げてもらいたいこと、（2）学生ができる・学生に期待する盛り上げ方、（3）事前準備を含めた参加期間の3点である。

（1）については、行事を盛り上げるための演出として地域内に生える竹を活用して制作をすること、出来る限り地域住民と交流を図り準備をすること、（2）については、参加する学生はいずれも運動部系に所属していることから、体力を必要とする準備活動については十分可能であること、（3）については、作業内容と地域住民の日常生活に支障を来さない範囲を考慮して、事前2日（8月22日、23日）、当日（8月24日）の3日間を参加期間とすることとした。

4　実践

行事として盛り上げてもらいたいことの具体策として、竹で制作した灯籠を会場周辺に配置し、夜道の安全を確保すると同時に盆踊りの雰囲気を盛り上げることとなった。竹は過去、A地域の大きな産業（竹炭）であったが、現在は廃れている。そこで改めて竹を活用する機会を考えた。竹を節ごとに切り、側面をくりぬき、下からトタン釘を打ち付けてろうそく台にした。この竹灯籠を50個制作した。さらに、くりぬいた竹の側面部分は細長く削り竹串にして、盆踊り当日の焼き鳥串に活用していただくことにした。盆踊りは夜の開催で、当日午後からは女性の方々が食事の仕込みをするので、仕込みにも学生が交流を含めて参加した。当初は住民、学生双方にコミュニケーションがなく、無言での作業であったが、休憩時間中に自己紹介を行ってから、出身地等の話題をきっかけにして作業中にも住民と学生の会話が途切れずに交流を深めることができた。

学生にできることとして、夕方から男性の方々と混じって盆踊り設営に参加した。当日は雨天のため、会場が屋外から集会所内へと変更になった。ブルーシートで漏水対策をする作業の手伝いと男性の方々との交流を深めることができた。

また、盆踊り開催前には、地域内の有線放送でA地域夢プランの実践活動として本学学生が関わっていることを放送していただき、参加住民の興味を高めていただいた。

5　実践がもたらした効果

これまでの盆踊りでの電飾は、やぐらに配置する提灯だけであったこともあり、盆踊りの演出として制作した竹灯籠は、ろうそくの自然な灯りが好評であった。事前の有線放送や開会式の際に学生の取組みを紹介していただいたこともあり、盆踊り中も多くの老若男女問わず地域住民の方々が学生たちに話しかけてくださっていた。少子高齢化という地域特性に加え、単身高齢者世帯の方も多く、普段はあまり話をされないという方も笑顔で学生と会話をされていたことが印象的であった。

当日の盆踊り参加者は萩市内に離れて暮らす子ども・孫世帯等も多く、若い世代も見かけたものの、普段あるいは準備の段階ではほぼ50代以降の方々が行事準備等を担っていた。昨年までの状況は、地域住民の方々に伺うと「いつもの顔ぶれでいつものようにやる」ということであったので、地域貢献度としては未知数ながら、20代の学生が加わることで活気づいたと言える。

6　おわりに

A地域夢プラン自体は行政や関連団体等と連携をとる計画内容のものも多く、住民自治活動で全てを完遂できるものではない。地域住民が主体となってアクションを起こすことによって連携の歯車が回り出すことも重要である。その意味において、今回のA地域夢プランの実践活動は、住民が主体となって活動をする部分に大学という外部団体が連携を図った形で進めることができた。

今後、今日的かつ継続的課題でもある人口減少や住民全体の高齢化により、地域活動や地域行事そのものも縮小化や見直しを余儀なくされることも出てくるであろう。地域の問題を地域内の自己努力で解決に向かわせることだけが地域福祉ではない。今回のように地域内で解決しにくい部分に様々な形で参加することによって、対処することが可能となる。今回の実践活動は地域住民の方々にとって、大学が活用可能な社会資源のひとつととらえてもらう良い機会であった。大学としてもA地域以外にも他地域にとっての活用可能な社会資源として、地域に貢献できることを考えていかなければならない。

今回の本学の関わりは、10月に「A地域コミュニティ協議会だより」の紙面で参加学生の感想文とともに

紹介され、A地域住民全ての世帯に配布された。打ち合わせ当初はそういったことは想定していなかったが、前日までの準備及び当日の様子を見てくださっていたA総合事務所職員の方の後押しがあり、実現した。学生も自分たちの努力が評価されたこと、地域貢献できたことの達成感を得たのではないかと思う。改めてこの場をかりて感謝を申し上げたい。

[引用・参考文献]

1) 横山順一 ; 中山間地域における住民の福祉課題についてーA 市 B 地域における「地域づくりアンケート調査」をてがかりにー,四天王寺大学大学院研究論集，7号 : 39，2013

2) 同上，41

A地域『 夢 プ ラ ン －「あったらいいね！」を形にしよう－ 』

市名地区名 萩市A地域B地区

＊活動主体のうち、コミュニティ協議会でも支援することが可能と思われるものについては、太字、赤字表記

協議会名　Aコミュニティ協議会

地域名	地域の夢	活動イメージの具体化（活動内容、取り組み方法等）	取組予定時期			活動主体			備考（資金調達方法・関係事業名等）
			すぐにいつでも	近い将来	遠い将来	個人ですること	集落等で取り組むこと	行政等にお願いすること	
紫福地域	自然、歴史あふれる観光資源の活用	地区内遺跡や自然景観地等を観光地として整備	○			・観光地や歴史の勉強 ・インターネットを活用したPR（ホームページ等）	・観光マップの作成 ・観光地周辺の美化 ・おもてなしレシピづくり	・案内ボランティア養成支援 ・観光マップ作成支援 ・道路改修、整備 ・必要備品の提供	
	豊かな物産品を活用した地産地消産業の展開	各種農作物、鮎、加工品、採集物、和牛、BDF（バイオディーゼル）等による、収入拡大（仮称：おこづかいアップ事業）	○			・古くから伝承されている郷土料理や製品の作成 ・一次産品を使った新しい料理や製品の検討 ・規格外や売れ残りの食材を提供	**・通販システム（お取り寄せ対応）の検討** **・他地域の先駆的取り組みの調査**		＊アイディアは住民から出し合ったり、地域外から募集しイベントにつなげることも可能
	行事、イベントの活性化	キリシタン中山地区祈念地でのミサ、集落の盆踊り、神楽舞の伝承といった地域行事やイベントに参加者、協力者を増やしていく		○		積極的な参加、アイディア提供	・人材バンク（仮称）経由で他**集落から協力住民を派遣** **・行事と観光の合体企画（例：盆踊り参加＋古民家宿泊体験、郷土料理のおもてなし、他地域の児童等を招待、かかし祭り）の検討**		
		役割分担の整理	○				先導的役割、補佐的役割、企画担当や広報担当等の役割別リーダーの養成		
	地域の拠点づくり	住民同士の交流スペース、地域外との交流の場づくり		○		・公民館や集会所の積極的な利用（住民憩いの場としての活用、展示の場としての活用）	・不定期にさまざまな企画を実施（住民の取組み展示や集会）	・医師会等との調整 ・地域の取組みや情報を発信	
		行政に頼らない集落支援組織の設立		○		積極的な参加	**・他地域の先駆的取り組みの調査**	・他地域の先駆的取り組みの調査 ・制度面での助言等	
	産業を呼び込み活性化	雇用者の増加を図る			○		・希望する業種の調査	・提供可能な土地の確認等 ・企業誘致	
		自営業種（レストラン、古民家旅館等）の増加を図る		○		・食材、協力者等の提供	・営業に関わる詳細への協力	・起業化支援	＊観光や地産地消産業、行事等、外部に向けた活動と一体化して考える
	既存産業（農林業）による生活安定	法人化による経営安定とそれ以外の販売ルートの開拓			○		**・通販システム（お取り寄せ対応）の検討** **・他地域の先駆的取り組みの調査**		
		鳥獣被害への対策					・行政や氣友会との連携	駆除の経済的支援等	
	生活の保障と安全	病院利用の不便さを解消する		○			**・巡回型診療の開始に向けた調整**	・医師会等との調整 ・診療所の夜間対応	＊地域の拠点づくりと一体化して考える
		福祉施設や介護サービスを確保する			○			・保健福祉計画との連携	
		独居高齢者の不安を解消する	○			・隣近所で声を掛け合いや見守り、訪問等	・日中（もしくは夜間）を一緒に過ごす	・希望があれば夜間共同宿泊所の提供	＊社会福祉協議会等とも連絡調整が必要
		買い物弱者（移動困難者）の不便さを解消する		○		・隣近所で声を掛け合う ・ネットショッピングの活用（資料4）	**・人材バンク（仮称）経由で他集落から協力住民を派遣**	・シルバー割引や定期券の仕組みづくり ・パソコンやインターネットの使い方の研修	
		10年後の生活状況を考える		○			・集会等で話し合い、情報や問題点を共有する	・テーマを決めた懇談会や座談会の開催	
		生活費（含年金）の確保の心配を解消する			○	・地産地消産業への参加	・地産地消事業を安定化するための企画提案	・（仮称）おこづかい事業に対する支援	
		空き家になっている住居への対応				・空き家バンクの利用	・空き家バンクへの登録を勧める	・居住希望者への斡旋と支援	観光やまちづくり、産業の活性化と一体化して考える
		福祉サービスを利用するほどでもない（福祉サービスには該当しない）小さな頼み事ができる		○		・隣近所で声の掛け合い	**・人材バンク（仮称）経由で他集落から協力住民を派遣**	・既存の行政サービスの横断的活用	
		夢を絵にする				・呼びかけ合って絵を書く ・集会場や公民館等に集まる	**・（例）展示コンテストの開催** **・各家庭、学校、職場等に依頼** ・作品の依頼、回収等	・広報活動	＊「夢を絵にする」ことは漠然としていて逆に書きにくいので、場面やテーマを決めて夢を表現してもらうとよい ＊絵以外にも、俳句や川柳、ジオラマ（箱庭）などいろいろなジャンルを検討する
		街灯等の整備		○		・取り付け場所、器具の候補選定	・取り付け場所、器具の候補選定	・予算の確保	山口福祉文化大学敷地内のソーラーライトの取り付け等も参考になると思われる
		電動カー等の安全対策	○			・蛍光シール等をつける ・自動車運転時の注意	・危険場所の確認と住民への周知	・補修等の補助	
		ぐるっとバス（予約便）の活用	○			・行政が配布するパンフレットの確認 ・利用、活用	・ぐるっとバスに関する住民懇談会の開催と周知	・親しみやすく活用されやすい工夫	
		地域の環境を整える（道路、河川、観光地等）	○			・目に見えるゴミは拾ったり、ポイ捨てをしない	・地域行事として大々的なゴミ広い企画（紫福を掃除し隊）	・県、市との調整 ・生活道の維持管理にかかる予算の確保	小学校等と連携して、お祭り後に子どもたちと一緒に掃除をすると一体感が高まる可能性も。
		農機具の保管に関する支援	○					・廃棄業者との橋渡し	
		農業備品購入の支援		○			・JA等へ集落全体として要求	・販売者の会議で協議	